

平成27年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	児湯郡都農町大字川北18922番地3		
自己評価作成日	平成27年12月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4572000513-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=0022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4572000513-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=0022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年1月22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設15周年を迎えようとしている当ホームは高台にあり、森林に囲まれた自然豊かなところです。四季折々の景観を楽しむことができ、大変恵まれた環境にあります。  
 地域との関係も良好で、常に思いやりの精神で協力しあっています。地域活動として月に1回のサロンに参加し、利用者は生きがいがづくりを楽しむ場として地域交流を深めております。また、長年入居されている方も増えてきたため、徐々に重度化となられた方もおられますが、ご家族、医療と連携しながら、少しでも楽しく生活していただけるよう努めています。  
 利用者の皆さんの笑顔を大切に、声に耳を傾け、利用者目線で物事を考えられるよう、優しい心でこれからも皆さんと共に『元気に！笑顔で！思いやり！』のホームを目指していきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、認知症サポーターやサロンを立ち上げるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。行政の担当者や運営推進委員等の外部協力者との関係も良好で、様々な情報交換がなされている。ホームは家族と共に利用者を支えるよう努め、本人本位のケアを実践し、利用者、家族との信頼関係を継続している。看取りに対しても、家族、本人の希望を大切にされた支援に取り組み、職員の勉強会や関係者との話し合いを持つなど、方針の共有を確認している。職員全員が理念を介護の指針として認識しており、利用者の笑顔へとつなげている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週1回、月曜日にその日の職員で理念の唱和を行い、職員の意識も高まり、共有・実践につなげている。	状況に応じて理念について職員で話し合い、作り変えている。その中で3つの目標を掲げ、日々のケアに生かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地区の総会、掃除などに参加し、地域との付き合いを大切にしている。また、ホームの行事への招待など、交流を図るように努めている。	地域の方から野菜や花の苗をもらったり、また、ホームで開く介護講座に多くの参加を得るなど、積極的に交流を図り、なじみの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方やご家族に向けて、毎年1回認知症についての講座を開催したり、地域活動のサロンでは介護施設の情報を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開き、取り組み状況等について報告、話し合いを行い、防災訓練など推進会議メンバーにも参加・見学して頂くなど、意見交換ができています。	会議では、毎回ホームの状況報告を行い、利用者の状態を全員で共有している。その時々々の議題に沿った関係者に参加してもらい、災害についての話し合いや地域の情報発信などがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では地域包括支援センターへ電話にて相談等、情報提供を頂いている。	町担当者が運営推進会議に参加している。また、入・退居者の情報交換や相談を密に行い、顔の見える関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修勉強会に参加し、全ての職員が正しく認識し、日中は玄関の施錠をしないなど、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束についての研修や勉強会を年間計画の中に取り入れ、拘束のないケアを実践している。問題行動のある利用者については、原因を見つけ、理解するよう努め、自由で安全な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加したり、勉強会を実施し、周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議などで日常生活支援事業や成年後見制度について研修を行い、必要性について考え、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人やご家族へ十分説明し、理解、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者、家族、地域、行政の代表の方が出席し、要望、意見を反映できるようにしている。また、面会時に職員、家族、利用者などでゆっくり話し合い、要望を聞いている。	運営推進会議に家族が交代で参加している。利用者の思いや希望を家族に伝え、利用者本位の支援となるよう取り組んでいる。来訪時に、家族が職員と一緒に調理を手伝うこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員からの意見や提案の声を聴けるように心がけ、改善など職員会議や申し送り時に話し合い、検討し、必要に応じて反映している。	管理者は、職員が意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。また、職員の変化に気付いた時は、食事等に誘うなどして話を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況等には常に心配りをしながら、職員が働きやすい環境を考え、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者及び職員に対して段階的に応じた研修や職員希望の研修についても働きかけ、協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会等への参加の中で、他の事業所との意見交換や情報収集に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族にホーム内の雰囲気等を見て頂き、必要な時には自宅など訪問して情報交換を行い、信頼関係を築き、不安なく入居して頂けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族側の気持ちも理解し、安心して相談しやすいよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報や本人の状態、意向を確認し、最も適したサービスが受けられるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が共に暮らす家族という意識を持ち、生活者の一員として、好きなこと、出来ることや得意なことに働きかけながら、お互いに支えあう生活を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい環境作りに努めたり、本人の日頃の生活や健康状態を報告し、把握して頂いているなど、共に支援していけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や馴染みの場所へのドライブなど、本人の要望に応じて、その都度対応している。 自宅に帰るのが困難な方にも、家族の協力を得て自宅訪問などを行っている。	なじみの店に買い物に行くことで、地域住民や友人、親戚との交流を図っている。帰宅を望む利用者がいれば家族と連絡を取るなど、本人の思いに沿う支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう職員が間に入ったり、利用者同士の関係を考慮して良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じて本人、ご家族の経過フォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いをくみ取れるよう、本人や家族に聞き取り、把握している。困難な場合はその方の立場に立って考えるように努力している。	行動の一つ一つに意味があることを管理者は職員に伝えており、利用者の思いの把握に全職員で努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察により、一人ひとりの状況を把握し、職員間で情報を共有し、その時に応じた接し方をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時にはカンファレンスに家族にも参加してもらい、現状を報告し、意見や意向を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	それぞれの担当者がモニタリングを行っている。カンファレンスは家族と本人も参加し、意見を聞きながら関係者全員で本人本位の計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、職員会議で話し合い、情報を共有しながら、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、できる限り柔軟にサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得ながら、ボランティアの慰問や地域のサロンに参加したり、楽しみながら交流ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を利用し、月1回の訪問受診、急変時の対応など、適切な医療が受けられるよう支援している。	ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。通院介助はホームで対応しているが、利用者一人ひとりの健康管理票を作成することで、より適切な受診へとつなげている。往診や急変時の対応など、協力体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関や看護師へ日々の心身の状態や情報などを的確に伝え、相談し、指示を受けながら、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は適切な治療ができるよう、本人の情報提供書を提出し、早期に退院できるよう家族と共に努めている。また、退院の際には、担当医師も含めカンファレンスを行い、情報を共有し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には、医師、看護師と本人、家族と十分な話し合いを行っている。「できること、できないこと」を適宜説明し、確認を行い、全員で方針を共有できるようにしている。	利用者、家族の思いを受け入れ、現在2名の看取り介護を行っている。状態変化がある度に関係者との話し合いを持ち、方針の共有に努めている。看取りについての職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急救命AEDの取り扱いなどの研修を定期的に行い、適切な対応ができるように全職員で知識を高め、実践・対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、火災避難訓練、防災通報訓練を実施している。運営推進会議でも地域の方々と災害について話し合い、消防訓練にも参加して頂き、協力体制を築いている。	土砂災害で避難した経験があり、防災意識が高く、消防や地域住民の協力もあり、定期的に訓練をしている。各個室からの避難経路も確立しており、職員と外部協力者との連携マニュアルの作成を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの気持ちを大切に、理解しやすく心地よい言葉かけや対応を心掛け、勉強会を適宜行うなど、尊厳に努めている。	トイレ誘導時の声かけなど、特に羞恥心にかかわるケアを行う際に注意を払っている。尊厳に関して職員の言葉などで気になった時は、その場で気づくよう働きかけ、改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉に耳を傾け、思いが聴けるよう努めている。意思疎通の困難な方に関しては、表情と本人の気持ちに寄り添ったケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や状態に配慮しながら自分のペースで暮らせるように、生活を乱すことなく柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重しながら、季節に応じた衣服と一緒に選ぶなど、本人好みの身だしなみやお洒落ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜畑より旬の野菜を収穫したり、買い物・調理・片付けを可能な限り一緒に行い、楽しく利用者と職員が食事がとれるようにしている。	職員は、食材や献立を伝えながら、利用者のペースに合わせて介助している。食後のテーブル拭きや片付けなどを利用者にも手伝ってもらっている。月に一度、希望の昼食とおやつを全員で作る「料理の日」を設けるなどの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態で提供している。十分に栄養がとれていない方については、家族に相談して栄養補助食品を摂取したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして、それぞれに応じた口腔ケアを行っている。また、義歯は定期的に消毒し、清潔保持に努めている。		

宮崎県都農町 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを周知し、トイレ誘導の声かけを行い、可能な限りトイレでの排泄が自立して出来るよう支援を行っている。	個々の排せつパターンを把握し、日中はトイレ誘導をしている。入居時におむつ使用であった利用者が、ポータブルトイレを使用することで布パンツに移行した例もある。放尿癖のある利用者の対策として、排尿する壁に鳥居の形を貼ることで改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のサイクルを把握し、水分や食事、体操、散歩などで予防し、できるだけ自然排便ができるように心掛けている。便秘時には指示を受け、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調など、状況に応じてできるだけ本人の希望に沿うように支援している。拒否のある場合は無理強いせず、時間をずらしたり、翌日に変更するなどの対応をしている。	本人の希望に沿った支援がなされている。また、一人ずつ入浴するため、コミュニケーションの場もなっている。脱衣所との境に段差があり、現在、段差解消のスロープを設置することを検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えや状態に応じてソファなどをつろぎ、休息をとっていただける環境を作っている。夜間気持ちよく安眠できるように、日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の服用する薬の目的、用法・用量を周知しており、医師の指示通り服用できるよう支援している。薬の変更や状態変化が見られたときは、症状の変化の確認を行い、申し送りノートにて把握できるよう連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣等を大事にし、一人ひとりの力に応じ、日常生活の中で楽しみや役割を持っていただき、張りのある生活が送れるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物と一緒に出かけられているが、出来る限り本人の希望に沿った外出の支援となるよう、時には家族の協力を得て、遠出や墓参り等に出かけられるよう支援している。	天気の良い日はホームの菜園に行ったり、周辺の散歩を日課としている。また、近隣の住民からお茶の誘いをうけるなど、家庭的な付き合いをしている。家族の協力で自宅に帰ることもあり、本人の希望に沿った支援がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に2回、訪問のパン販売には好きなパンをご自分の財布より支払いされ、買い物が楽しく行えるよう支援している。日常の買い物においては、本人、家族と相談の上決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも電話をかけたり、取り次いだり、家族や親しい人と連絡がとれるように支援している。手紙や小包が届いた場合は、ご本人へ直接手渡し、必要時には代読を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるよう、玄関、食卓には常に季節の花を活け、共用の空間は混乱を招くことがないように配慮している。常に心地よく過ごしていただくように努めている。	日中は、利用者はホールで過ごすことが多く、感染症予防効果のある加湿器を2台設置している。共用の空間と居室は動線上にあり、全てが視界に入りやすくなっている。主に来客用としているトイレはベランダにあり、窓を開けての出入りとしているが、手洗いが水洗タンクのみで衛生上不安がある。	トイレの性質上、手洗い場の整備及び消毒、除菌用品を設置するなど、衛生面への配慮を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家庭的な雰囲気の中、ソファーでは利用者一人で、また、気の合う利用者同士でも安心して過ごせるよう座る場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真、鏡台、ベッド、使い慣れた日用品など、馴染みや思い入れのある物が持ち込まれ、その人らしく安心して過ごしていただけるように配慮している。	寝具類や衣類収納ケース等、それぞれ使い慣れた物を使用し、思いに沿った配置がなされている。自室の掃除を職員と一緒にを行う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの目印や表示をしたり、混乱を防ぐようにしている。個々の力に応じた行動を見守り、補助具の使用や環境整備に配慮し、安全に生活していただくよう工夫している。		